

# 令和7年度 自己評価書

学校名	和歌山市立安原小学校
校長氏名	永原 三士
作成日	令和 8年 2月 12日

## 1 教育目標

自ら学び、心豊かで創造性に富む子どもの育成

## 2 本年度の取組についての評価

	確かな学力の向上	豊かな心の育成	健やかな体の育成	地域とともにある学校
指標	○授業がよく分かる児童が90%以上 ○学力調査の正答率を市平均並みにする	○学校が楽しいと感じる児童が90%以上 ○いじめの解消率が100%	○朝ご飯を食べた児童が100% ○体力テストの各種目の数値が昨年度を上回る	○学校の様子がよく分かる保護者が90%以上 ○学校間・地域連携実践できた教員が90%以上
重点目標	◎基礎・基本の定着 ◎主体的・対話的な授業の推進 ◎家庭学習の推進 ◎読書活動の推進	◎道徳・人権教育の充実 ◎いじめの未然防止・早期発見 ◎体験活動の充実 ◎仲間作りの充実	◎体力向上の推進 ◎健康・安全習慣の確立 ◎基本的生活習慣の確立 ◎危険回避能力の育成	◎コミュニティスクールの充実 ◎中学校区での学校連携の推進 ◎保幼小の接続の連携 ◎地域資源の活用推進
取組の状況【D】	○学び合いの授業づくり推進のため、研究授業や協議会を充実させ、実践力を高める。 和歌山信愛大学 小林康宏教授の指導を受ける。 ○タブレット端末を活用しながら、自ら課題を見つけ、追及する授業を実践する。 ○家庭学習の手引きをもとに、保護者と協力しながら基礎学力の定着を図る。 ○読み聞かせや読書タイムを実施するとともに、読書ボランティアの方々にも来ていただき、図書室の開放を行っている。	○人権・部落問題学習を、組織的・計画的に行う。 ○いじめアンケートを毎学期に実施し、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に努める。 ○不登校児童支援員やスクールカウンセラー、その他関係機関と連携し、不登校児童の対応にあたる。 ○児童会のイベントや高学年の宿泊体験活動等を通じて、自他を尊重する意識を養い、仲間意識を培う。	○生活アンケートを実施し、基本的生活習慣の確立に努める。 ○体育学習における運動量を確保し、運動に親しむ習慣をつける。 ○高学年の希望者対象に、陸上競技の早期練習を実施する。 ○毎学期、避難訓練(火災、地震・津波、不審者対応)を実施するとともに、交通安全教室を開催し、歩行や自転車の実技指導を行う。	○年3回学校運営協議会を開催し、運営委員の方々から様々な意見をいただき、学校運営を充実させる。 ○保幼小の接続、中学校区での小学校同士や中学校との連携を推進する。 ○ホームページを活用し、学校だよりやイベント等の状況を発信する。
取組の成果と課題【C】(評価結果)	○全国学力調査(6年)では、全国平均の比べ国語-3P、算数-8Pであった。昨年度と比べ、算数での差が広がった。 ○県学力到達度調査での県平均との差は、 4年 国語-6.0P 算数-7.6P 5年 国語-6.2P 算数-4.1P 理科-6.5P	○いじめアンケートの毎学期実施、保護者からの相談等によりいじめの早期発見・解決につながった。 解消率は100% ○不登校児童や不登校傾向を示す児童に対し、保護者や関係機関と連携し、対応・支援の充実を図った。	○朝食を毎日食べている児童は、93% ○全国体力・運動能力調査で、全国平均を上回る種目数は29種目、下回る種目数は25種目であった。昨年と比べて上回る種目数はほとんど変わらなかったが、下回る種目数は改善してきた。	○学校の様子がよく伝わったと感じる保護者は、78%(+4P)であった。引き続き、学校からのよりよい情報発信方法について検討していきたい。 ○各学年に応じ校区探検や農作物づくりなど、地域の方々にご協力いただき学習を進めることができた。 ○地域の幼稚園・保育所との交流ができた。
改善方法【A】(次年度に向けての)	○基礎基本の定着のため、どの子にもわかる授業を目指し、授業の工夫改善を行う。 ○毎週の読書タイムに継続して取り組むとともに、読書環境の一層の充実に努める。	○いじめはあるものと認識し、各担当が児童の様子を細かく観察するとともに、全教職員が意思統一していじめ問題に取り組んでいく。 ○教職員の人権研修を毎学期実施し、人権意識を高めていく。	○引き続き、体力向上のため、体育の授業の運動量確保に取り組む。 ○火災・地震・不審者対応等の避難訓練を毎学期に実施し、児童の危機回避能力の向上に努める。	○学校からの情報の伝え方を工夫し、学校の様子をタイムリーに伝えていきたい。 ○学校での授業や行事などの場面で、保護者・地域の方々の協力を呼び掛け、参加していただく機会を設ける。

## 3 その他の課題